

伊藤喜美氏の功績しのぶ

名古屋

バロー創業者 政財界2100人、お別れの会



穏やかな表情をみせる伊藤喜美氏の遺影に花を手向ける参列者ら＝7日午前、名古屋市西区、ウエスティンナゴヤキャッスル

スーパーマーケット「バロー」創業者で、7月に93歳で死去した伊藤喜美氏のお別れの会が7日、名古屋市のホテルで営まれた。政財界、地元関係者ら約2100人が参列し、別れを惜しんだ。

穏やかな表情の遺影が、白いキクやランなどの花と赤いバローのロゴがあしら

われた祭壇に飾られた会場。娘婿の田代正美会長兼社長は、追悼の言葉で「創業者の理念と意志は今後もバローの伝統としてしっかりと受け継ぐ」と宣言した。

可知義明恵那市長はお別れの言葉で「常に伊藤さんの目はふるさと恵那市と次世代を担う若者に向けられた」と振り返り、「市発展のために全力を尽くす。どうかお見守りください」と締めた。その後、ゆかりの参会者が白いカーネーションを手向けた。

ユニグループ・ホールディングスの佐古則男社長（下呂市出身）は「（バローを）中部を代表するスーパーに育てられた偉大な経営者だった」と弔意を示した。